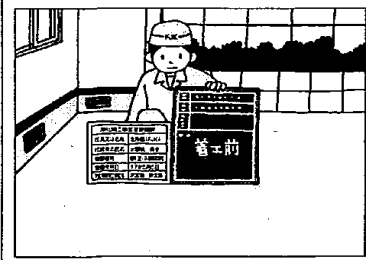
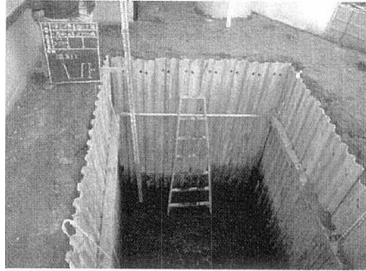
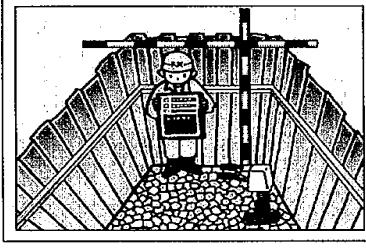
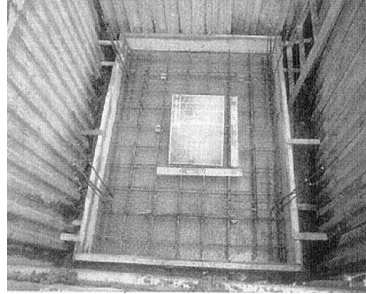
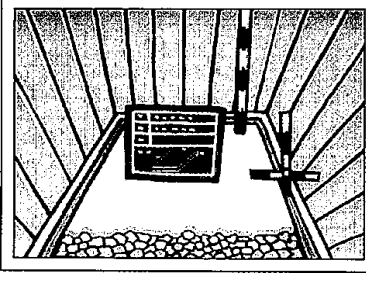



東広島市小型浄化槽設置整備事業の工事写真及び施工基準について

全ての工事写真に工事黒板を入れて撮影すること。

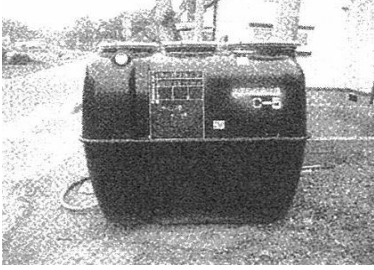
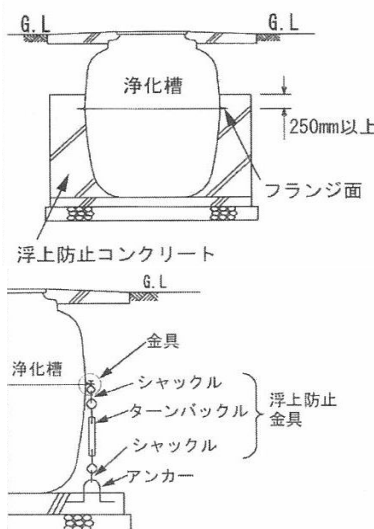
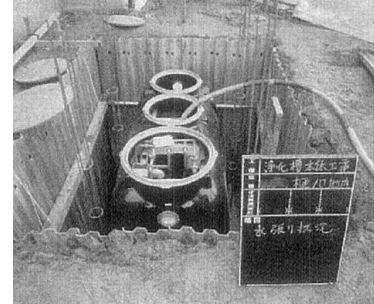
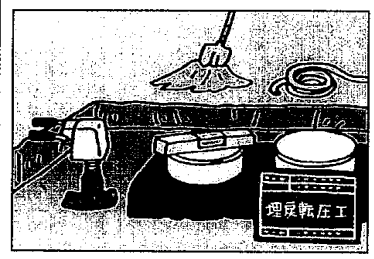
工事黒板へ補助金交付指令番号及び指令年月日を記載すること。

工事手順	工事写真例	施工基準	備考
①着工前			※設備士が立会いおよび施主・設備士の名前が確認できるように撮影する。
②掘削		※根切りが深く土が崩れるおそれがある場合は、オープンカット又は山留するなど安全対策をおこなうこと。	※必ずスケールをあて、スケール、黒板が判読できるよう撮影すること。
③栗石作業		※基礎底盤は地固めを行い、基礎栗又は基礎碎石厚100mm以上とする	※必ずスケールをあて、スケール、黒板が判読できるよう撮影すること。 ※栗石または碎石地業でランマ一等機材で転圧の作業を行っているところを撮影すること。
④基礎コンクリート工事		※直径10mm以上の鉄筋を200mmピッチ以内の格子状に配筋する。 ※配筋は、基礎コンクリート、支柱、上部コンクリートを接続する。	※必ずスケールをあて、スケール、黒板が判読できるよう撮影すること。 ※型枠及び配筋状況が分るもの、ピッチが分かるスケールとともに撮影すること。 ※基礎底盤コンクリートの広さは、浄化槽外形寸法以上とする
		※基礎コンクリート厚は150mm以上を必ず水平に敷きこみ、浄化槽の荷重に耐える十分な強度が得られるまで養生すること。 ※降雨や湧水がある場合は、釜場もしくは型枠外部にポンプを設置し、水替えのうえ打設すること。	※コンクリート打設中の写真を撮影すること。 ※支柱(鉄筋)も確認できるように撮影する。
		※表面をコテ仕上げ(押さえ)のうえ水が浮いてない状態で撮影すること。	※コンクリート養生後、コンクリート厚の分かるスケールとともに撮影すること。 ※必ずスケールをあて、スケール、黒板が判読できるよう撮影すること。

東広島市小型浄化槽設置整備事業の工事写真及び施工基準について

全ての工事写真に工事黒板を入れて撮影すること。

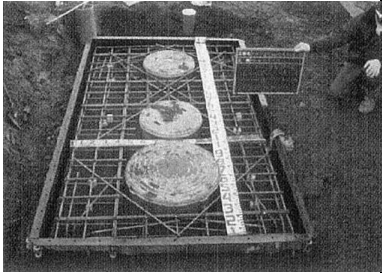
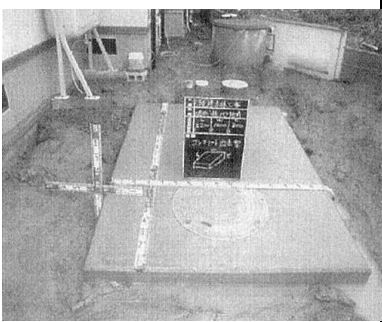
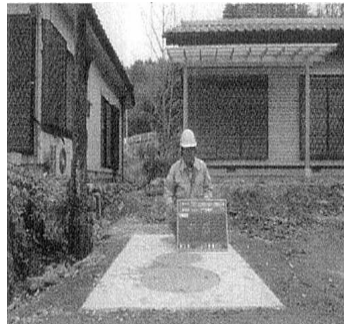
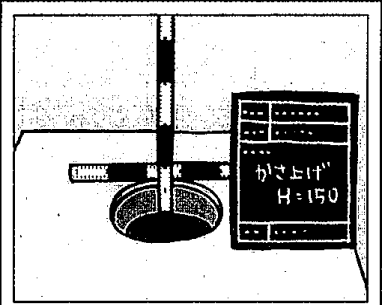
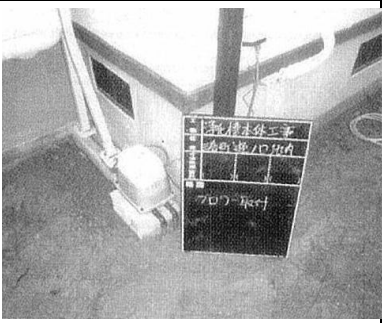
工事黒板へ補助金交付指令番号及び指令年月日を記載すること。

工事手順	工事写真例	施工基準	備考
⑤浄化槽確認			<p>※現場にて浄化槽の機種、製品名が判読できるように真横から黒板を充て撮影する。</p>
⑥据え付け工事		<p>※湧水等により清掃のため汚泥等を引き抜いたとき浄化槽本体が浮上するおそれがある場合は、浮上防止金具等を配筋などに接続し、浮上防止を行う。</p>	
⑦1/3埋戻し		<p>※浄化槽を据え付け後、満水にして24時間以上漏水がないことを確かめる事。</p> <p>※浄化槽本体の埋戻しは、浄化槽本体に所定の水張りを行い、水準目安線の位置及び水平器での測定により、水平を確認しながら、良質の土砂を使用し十分な水締めを行うものとし岩石及び凍結土等、浄化槽本体の破損のおそれのあるものを使用しない。</p>	<p>※必ず黒板が判読できるよう撮影すること。</p> <p>※水張りを行い、本体の水平を確認しつつ埋戻しの作業を行っていることが分る写真を残す。そのためには、以下の道具等が写っていることが必要。</p> <p>ア. 本体の水平を確認するための水準器(これに代えて、水準目安線 や越流げき、流入、放流、移流管 等の状況を浄化槽設備士等が確認していることを撮影した別の写真でも良い)</p> <p>イ. 埋戻しの高さを示すスケール</p> <p>ウ. 水張り及び水締め用いるホース</p> <p>エ. 突き固め用の器具(突き棒、ランマー等)及び埋め戻しに用いる土砂(本体を傷つけるおそれのある石などが入っていない土砂)</p>
⑧2/3埋戻し			
⑨全部埋戻し			

東広島市小型浄化槽設置整備事業の工事写真及び施工基準について

全ての工事写真に工事黒板を入れて撮影すること。

工事黒板へ補助金交付指令番号及び指令年月日を記載すること。

工事手順	工事写真例	施工基準	備考
⑩上部スラブ・配筋		<p>※直径10mm以上の鉄筋を200mmピッチ以内の格子状に配筋する。</p> <p>※直径150mm以上のコンクリート管又は同程度の強度を有する支柱を4本以上設けること。ただし、相当の理由がわかる場合がある場合には、理由書を添付することにより支柱工事を行わないことができる。</p> <p>※配筋は、基礎コンクリート、支柱、上部コンクリートを接続する。</p>	<p>※必ずスケールをあて、スケール、黒板が判読できるよう撮影すること。</p> <p>※配筋の状態が分るもの。ピッチが分かるようスケールとともに撮影すること。</p>
⑪上部スラブ打ち		<p>※コンクリート厚は150mm以上とする。</p>	<p>※必ずスケールをあて、スケール、黒板が判読できるよう撮影すること。</p> <p>※コンクリート養生後、コンクリート厚の分かるスケールとともに撮影すること。</p>
⑫完成写真		<p>※浄化槽本体の破損防止に留意し、建物等の外圧が直接浄化槽本体に影響を及ぼさないように施行する。</p>	<p>※必ず黒板が判読できるよう撮影すること。</p> <p>※浄化槽の上部及び周辺の状況から、残土の処分や工事の後片付け等、工事が終了している状況が分かるように撮影すること。</p> <p>※現場において、工事の竣工確認を行った浄化槽設備士が写っていることが望ましい。</p>
⑬かさ上げ		<p>嵩上は300mm以内とすること。300mmを超える場合は、ピットを設けること。</p> <p>※スラブ上面はGLより高くすること。</p>	<p>※必ずスケールをあて、スケール、黒板が判読できるよう撮影すること。</p>
⑭フローア据え付け			<p>※必ず黒板が判読できるよう撮影すること。</p> <p>※フロア、屋外用コンセント、アース工事及び送気管とフロアの接続状況が分かるように撮影すること。</p> <p>※アースレスのフロアの場合にはその旨を黒板に記入すること</p>